

# 日本の消費 問題

2-2-12



# 食品ロス

現在、生産量は増える一方となっていますがその全てが消費されているわけではありません。

物によってはロスとして廃棄されるものもあります。

また使用されたとしても、リサイクルされずに捨てられてしまう物も少なくありません。

今の世の中ではこれらの廃棄は**大きなリスク**に他ならないのです。

# なぜこれが大きなリスクとなるのか

人口の増加により人間は、大量生産や大量消費、そして大量廃棄を繰り返してきました。

人間が快適な暮らしをするために、多くの資源を使って大量生産をし、さらには生産されたものの中には大量廃棄されることで、環境に大きな影響を及ぼしてきたものが沢山あります。

# 私たちに できること

1

家庭での取り組みとしては買い物前に冷蔵庫の中身などを確認し、過剰に食品を購入せず、食べきれぬ量だけ購入するようにする工夫が必要です。

2

さらに消費期限と照らし合わせ、利用予定を立てることも同時に行っておくといいでしょう。

3

他にも食品ごとに適切な保存方法をとることや、残っている食材から使うなどの対策を行い、食品ロスを極力減らす努力が求められます。

# ゴミ・廃棄問題

大量廃棄は環境への負担として大きな問題になっています。

その中でも廃棄物管理と現状の展望については緊急対策を講じなければいけないレベルにまで達しているとも言われています。

世界の廃棄物は、2050年には現在より70%増加すると予測されており、これは急速な都市化と人口の増加によるものであり、早急な対策を行わなければ、世界は廃棄物であふれかえることになってしまいます。

# プラスチックごみ

ごみによる環境への影響のなかでも、プラスチックごみは特に大きな影響を与えています。

プラスチックはとても便利で、生活のあらゆる場面で活用されています。

そして、その多くは使い捨てとなっているためごみとなる量も非常に多いとされています。

ここで問題になるのがプラスチックの処理です。適切にごみとして処理する分には問題ありませんが、ごみ箱に捨てずポイ捨てをする人も少なくありません。

ポイ捨てされたごみは風に飛ばされ川などに流され、やがて海に流れ着きます。

海に流れ着き、環境を汚染しているプラスチックは「海洋プラスチックごみ」と呼ばれ、大きな問題とされているのです。

# 私たちにできること

ごみの削減には、「リデュース (Reduce)」「リユース (Reuse)」「リサイクル (Recycle)」をまとめた3Rを心がけていくことが大切です。

日本政府が推進する3Rは、プラスチックを含むごみを出さないための工夫であり、場合によっては資源にもできる方法を説いています。

例えばリデュースはマイバックの持参によるレジ袋の削減など、リユースは詰め替え用ボトルの再利用と廃棄ボトルの削減など、リサイクルはプラスチックを、分別回収による原料としての再利用を行う方法です。

どれもちょっとしたことでできることばかりであり、私たちがすぐにもできる取り組みと言えるでしょう。